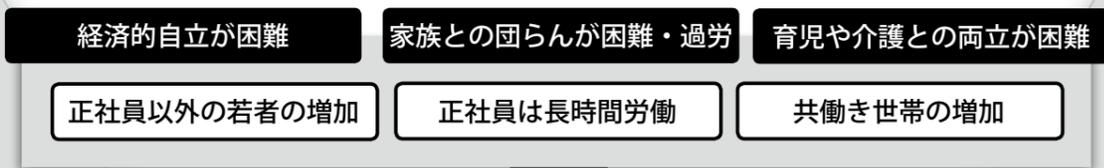


work - life balance  
「仕事と生活の調和」が求められる理由

現在の「働くこと」を取り巻く状況



働く人が、将来への不安を抱えたり、豊かさを実感できない

社会の活力の低下、少子化のさらなる進行

社会を持続可能で確かにする\*ための取り組みが必要

仕事と生活の調和の推進

就労による経済的自立    健康で豊かな生活    多様な働き方・生き方の選択

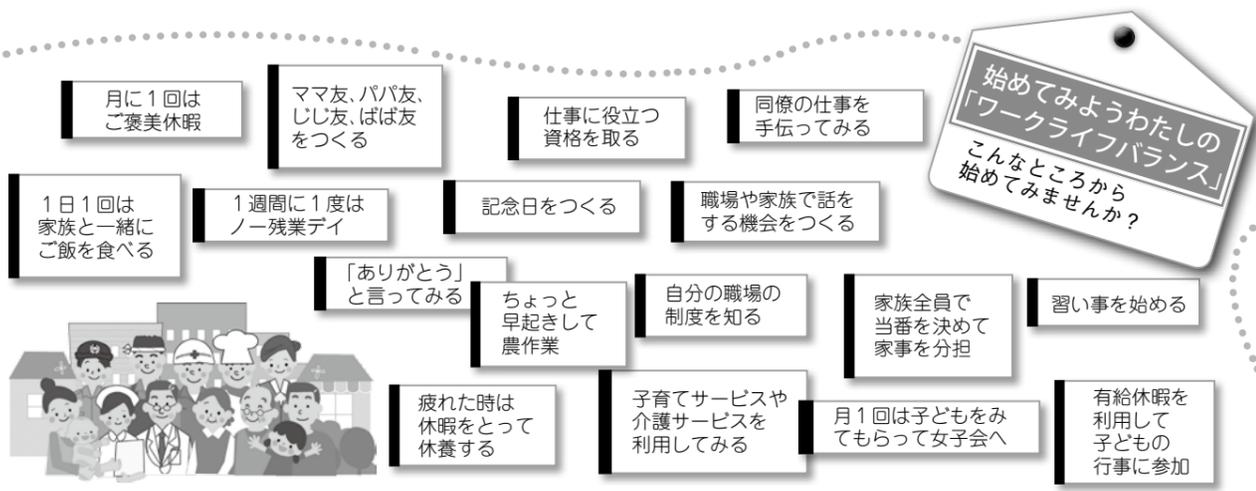
これから目指すべき社会

\*しっかり働き、豊かに暮らせる社会

明日への投資

働き方の見直し、生産性の向上や競争力の強化につながる

出典：仕事と生活の調和の実現のために  
(内閣府パンフレット)



家族で作るキャラ弁教室

特集 あなたに合った

「ワークライフバランス」

Let's find the work-life balance that fitted you

・ 見つけましょう

あなたにとって「働く」とはどのようなことですか？  
少し立ち止まって考えてみませんか？

女性児童課女性子ども支援係  
☎0824-73-0051

「ライフ（＝人生や生活）」の中で「ワーク（仕事）」がほとんどを占めてはいませんか？

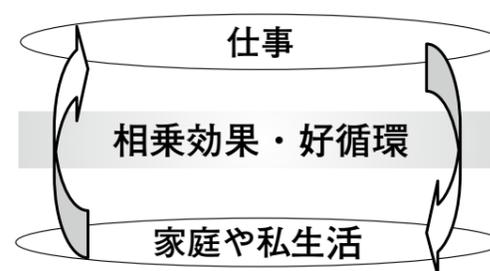
仕事は暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすものとして、人生や生活の中の大切な一部ですが、同時に、家事・育児、近隣との付き合いなどの生活も暮らしに欠かすことができないものです。「ワークライフバランス」とは、日本語で言うと「仕事と生活の調和」。これは仕事と生活に費やす時間を半々でバランスをとることでもなく、また、片方を選ぶことでもありません。ワークライフバランス憲章（内閣府）によると「国民一人一人がやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」とされています。

子育ては地域社会へのパスポート  
イクメンブームの中で

父親の子育てを支援しているNPOファザリング・ジャパン副代表の小崎恭弘さんが6月23日、ワークライフバランスを男性の生き方の視点で講演し、次のように述べています。

「現在はイクメンブームです。このイクメンとは、単に子育てをしているだけでなく、主体的に子育てを行い、楽

◆ワークライフバランスのイメージ◆



しみ、ママと子どもと一緒に家族をつくっていく覚悟と責任のある父親を指す言葉です。イクメンやイクジイ（イクメンおじいちゃんのこと）が増えてきたことからわかるように、男性自身も幸せの価値観が変わり、家族との時間を大切にしようようになってきたのだと思います。父親も子育ての場に参加することで地域社会とのかかわりが生まれます。子どもが豊かに生きていく社会は誰にとってもよい社会になります。子どもは私たちの未来であり、彼らを守り育てることは未来を守り育てること。それができるのは地域社会だけです。

地域社会の一員として、家族というチームの一員として、「自分の人生をどう生きるか」を考えてみませんか。



### お互いに尊重し合える社会形成を学んだ

「笑顔フェスタ」は若い夫婦や子どもたちのお祭りのようで、とても楽しい1日でした。今回は特に男性の役割・生き方を主なテーマとして、仕事と家庭、地域活動などのバランスをいかにとってお互いに尊重し合える社会が形成できるかを学びました。“ありがとう”の感謝の言葉（じゅもん）を多く唱えることで、成熟した豊かな社会が実現できるよう願っています。

笑顔フェスタ運営委員長 古川 由紀 さん



### 性別にこだわらず自分でできることを

当日は雨が降る中、たくさんの方に足を運んでいただき、にぎやかで楽しい1日となりました。男女共同参画と聞くと何か難しいことのように捉えがちですが、気軽に参加できる「笑顔フェスタ」は男女共同参画を身近に感じられるイベントだと思います。男性、女性にこだわらず、自分で出来ることをやっていくことが大切だと思います。

笑顔フェスタ運営委員長 八谷るりこ さん



ありがとうのメッセージを書く子どもたち

### 「笑顔フェスタ」

「ワークライフバランス」をテーマに、「ありがとう」は魔法の言葉（じゅもん）をキャッチフレーズに開催した今年の笑顔フェスタ。家族で参加できるイベントを中心に、来場者と一緒に楽しく男女共同参画について考えました。家族への感謝の言葉「ありがとう」の花を咲かせようのコーナーでは、小さな子どもから中高年の方までが多くのメッセージをつづりました。

### 市内7地域を巡回する男女共同参画パネル展開催中!

今年のテーマは「ワークライフバランス」。職場の状況を全国や庄原市のデータから見えて一緒に考えてみませんか。

また、県内の「子育てと仕事の両立支援」や「ワークライフバランス」の取り組み事例を紹介し、笑顔フェスタの写真や「ありがとう」のメッセージもご覧ください。

期 間	会 場
9/4(水)~10(火)	西城しあわせ館
9/12(木)~19(木)	市役所本庁 1F市民ホール
9/24(火)~30(月)	高野支所ホール
10/2(水)~8(火)	口和支所ロビー
10/10(木)~16(水)	総領支所ホール

※平日のみ  
※比和、東城会場はすでに終了しています。



講演会にも多くの人



笑顔市に集う人

### 子育て支援に取り組む市内の企業を「紹介」



### 社会福祉法人 優輝福祉会

(優輝福祉会の概要)  
所在地：庄原市総領町中領家 476 番地  
事業：高齢者および障害者介護事業所、障害者就労支援事業所を運営  
代表者：熊原 保 理事長  
従業員数：293 人(うち男性97人、女性196人)

### 広島県北部で初！子育てサポート企業の証「次世代認定マーク」を取得

社会福祉法人優輝福祉会(熊原保理事長)は、「あなたが輝けば、わたしも輝く」を基本理念に、高齢者介護事業所などを運営しています。職員一人一人がそれぞれの持つ輝きを、職場の中や利用者など、かかわるすべての人に広げていくことが理念の実現につながっていくと考え、職場環境の整備を進め、仕事と家庭の両立を支援しています。平成22年に策定した「一般事業主行動計画」期間内に、男性1人、出産女性8人全員が育児休業を取得したことに、平成24年に子育てサポート企業として厚生労働省に認定され、「次世代



育児休業を取得した 延原 大輔 さん

H23年7月~8月の2カ月間取得  
H25年7月15日~31日の間取得

### 育児期間は父親として成長できた時間

もともと私たちは出産を自宅で行いたいという希望がありました。当然家族の不安も負担も大きいので、私が育児休業を取得することは自然なことでした。家族と出産、産後に立ち会えたことで、出産を自分事として捉えることができたように思います。子育てや家事全般を行うことで、子どもの成長をその都度発見できたことや、ゆったりとした時間を子どもと過ごせて、父親として自分自身成長できた期間だったと思います。これも、職場に育児休暇制度があったこと、相談した当時の職場からも快く受け入れていただけたことがとても大きかったです。

### 優輝福祉会が運営する事業所内保育所を利用するママの声

土日でも子どもを連れて働けること、ガラス越しに様子が分かること、子どもに働いている母の姿を見られるのがとても良いです。スタッフも子育て中のママなので、育児の話がお互い出来ることなども魅力的です。

(レストラン厨房兼ホールスタッフ、5歳と6歳の子を持つ35歳の女性)  
(事務職、3歳の子を持つ32歳の女性)

自然の中で伸び伸びと成長する子どもの声を聞いたり、様子を垣間見ることができ、仕事中でもほっとすることが出来ます。子どもが近くにいることで、頑張ろう!という気持ちも湧いてきます。

取り組み内容  
①男性も育児休業を取得できるように、管理職を対象とした研修を実施。  
②年次有給休暇の取得促進のため、理事長から全職員に到達。  
③職員が子育てしながら仕事ができるよう事業所内保育施設を設置。

認定マーク「くるみん」を取得しています。また、メモリアル休暇(結婚記念日・誕生日・入学式・法事などの記念日休暇)を年に2回以上取得することを促進するなどの計画を平成24年9月に策定し、「広島県仕事と家庭の両立支援企業」に登録されています。平成25年3月の時点で、取得率60%以上の実績を上げています。